





凡 例

記 号	名 称	備 考
	スプリンクラーヘッダー	40A
		4栓、5栓、6栓 YSH40-4P~8P 特許出願中
	スプリンクラーヘッド	72℃ 閉鎖型 1種 YSR-43A 30L/min 0.05MPa
	スプリンクラー用継手（金属管）	死水防止対策用 YSPJ2-20A
	試験弁セット	オリフィス、三方弁、圧力計 GHYMT型
— s —	スプリンクラー配管	JIS G3452 SGP
		架橋ポリエチレン（エクセルパイプ） YGH-20HON5P・10P

設 計 計 算 書

1. 揚水量	
水道連結型スプリンクラー設備	30L/min・個×4個同時＝120L/min

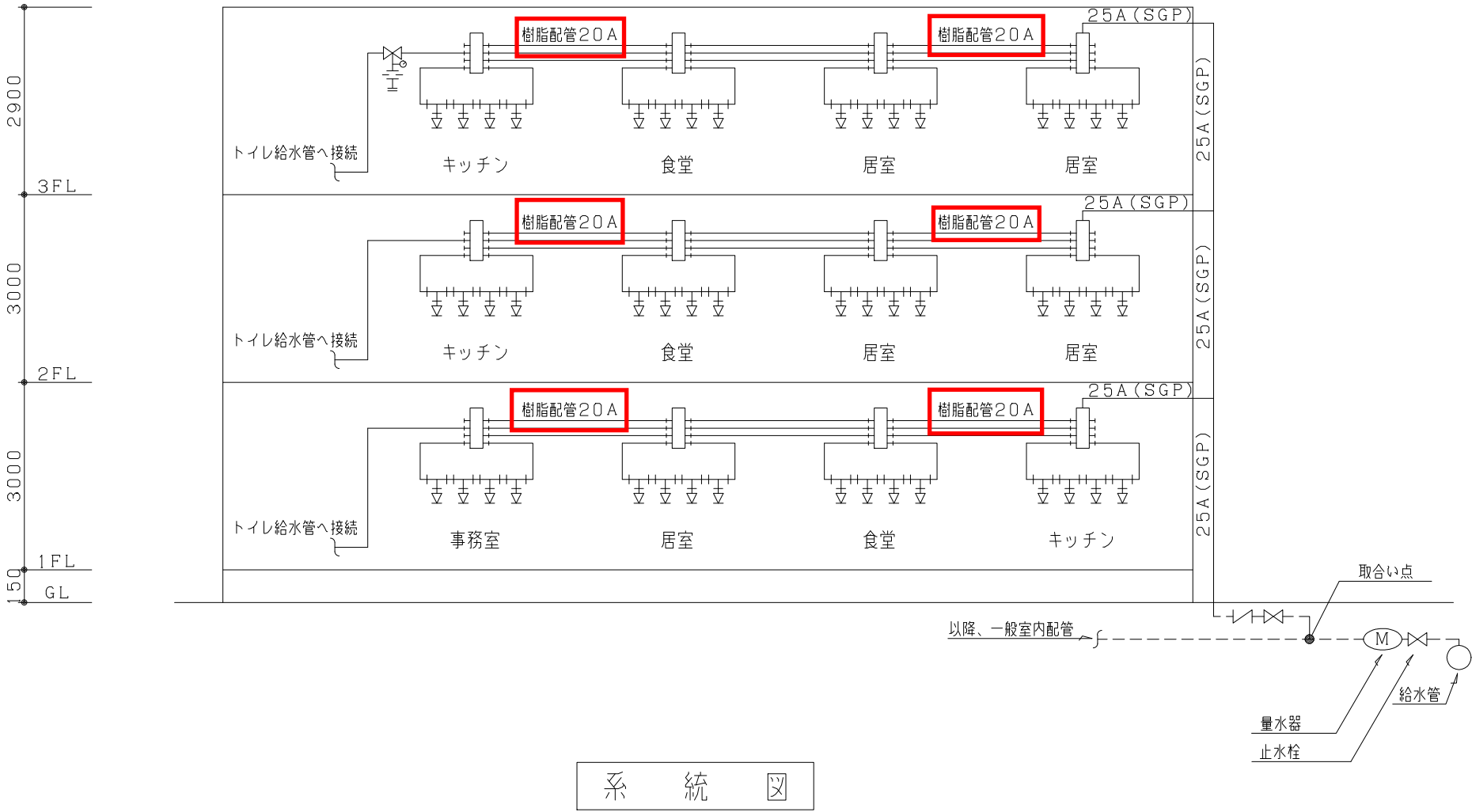
2. 全揚程	水道連結型スプリンクラー設備
実揚程	9.35m
配管摩擦損失	32.95m
放射圧力損失	5.00m
合計	47.30m
合計×1.1	53.00m

別 途 工 事

以降排水工事	----
--------	------

特 記 事 項

- 水道連結型スプリンクラー設備の設計施工は、ヤマトプロテック（株）のサーキット工法（特許出願中）とする事。
尚、サーキット工法の施工については、ヤマトプロテック（株）へ確認を行う事。
- 特定施設水道連結型スプリンクラー設備の設置に当たっては、管轄する水道事業者（水道部、水道局等）、及び所轄消防への確認を行う事。
- スプリンクラーヘッドを設置する部屋については所轄消防へ確認を行う事。
- 水道給水管からスプリンクラー設備への分岐は25Aと仮定し設計するものとする。
- 水道連結型スプリンクラー設備の必要圧力0.53MPaは、給水管取合点での圧力とする。
量水器から取合点までの損失と水道連結型スプリンクラー設備の必要圧力を加算した圧力が給水圧力で得られない場合は、給水引込み口径を増径するか、増圧ポンプ設置要否の検討を行う事。
- 架橋ポリエチレンの使用については難燃材以上とする。木造、露出配管、難燃材未満の部分については銅管に変更し設計も変更する事。
- 樹脂配管には結露を防止する為、5mmもしくは10mm以上の保温を施す事。
- 水道連結型スプリンクラー設備の工事は水道事業者が行う事とする。



系 統 図